(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2024-86036
(P2024-86036A)
(43)公開日　令和6年6月27日(2024.6.27)

(51)国際特許分類		FI		テーマコード（参考）
Ｇ０６Ｆ　40/166(2020.01)		Ｇ０６Ｆ	40/166	５Ｂ０９１
Ｇ０６Ｆ　40/279(2020.01)		Ｇ０６Ｆ	40/279	５Ｂ１０９

審査請求　有　請求項の数　13　　ＯＬ　（全13頁）

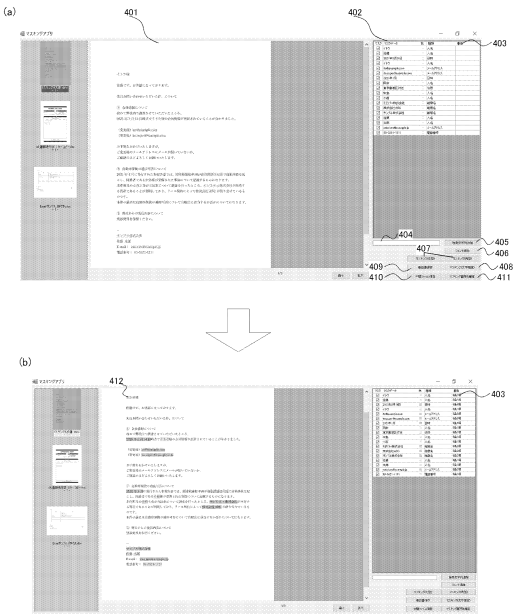
(21)出願番号　特願2022-200897(P2022-200897)
(22)出願日　令和4年12月16日(2022.12.16)

(71)出願人　390002761
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
東京都港区港南２丁目１６番６号
(74)代理人　100189751
弁理士　木村 友輔
(74)代理人　100227857
弁理士　中山 圭
(72)発明者　中島 淳
東京都港区港南２丁目１６番６号 キヤノンマーケティングジャパン株式会社内

Ｆターム（参考）　5B091　AB06
5B109　QB11

(54)【発明の名称】　情報処理システム及びその制御方法、プログラム

(57)【要約】
【課題】　そこで本発明では、マスク処理を効率的に行うことを可能とする仕組みを提供することを目的する。
【解決手段】　文書に含まれる特定の文字列について、当該文字列として認識できない形態になるよう特定の加工を施す加工手段と、
　前記加工手段による加工の対象の文字列を識別可能に表示した文書と、加工対象の当該文字列の一覧とを表示するように制御する表示制御手段と、
　前記一覧に対する操作を受け付けることで、前記特定の加工の対象の修正を受け付ける受付手段と、
　を備えることを特徴とする情報処理システム。
【選択図】　図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
文書に含まれる特定の文字列について、当該文字列として認識できない形態になるよう特定の加工を施す加工手段と、
前記加工手段による加工の対象の文字列を識別可能に表示した文書と、加工対象の当該文字列の一覧とを表示するように制御する表示制御手段と、
前記一覧に対する操作を受け付けることで、前記特定の加工の対象の修正を受け付ける受付手段と、
を備えることを特徴とする情報処理システム。
【請求項２】
前記受付手段は、前記一覧に表示された文字列に対する前記特定の加工の有無を切り替える操作を受け付けることを特徴とする請求項１に記載の情報処理システム。
【請求項３】
前記受付手段は、前記特定の加工を施す理由を受け付け、
前記表示制御手段は、前記受付手段により受け付けた理由に応じて前記特定の文字列を識別表示するよう制御することを特徴とする請求項１に記載の情報処理システム。
【請求項４】
前記表示制御手段は、前記理由に応じて前記特定の文字列に対する色を変更して表示するよう制御することを特徴とする請求項３に記載の情報処理システム。
【請求項５】
前記受付手段は、前記理由をさらに特定する情報の選択を受け付けることを特徴とする請求項３に記載の情報処理システム。
【請求項６】
前記加工手段によって加工された文書に対して前記特定の加工について修正を行うと、その修正内容が前記一覧に反映されることを特徴とする請求項１に記載の情報処理システム。
【請求項７】
前記加工手段は、文書に含まれる文字列以外の任意の場所を認識できない形態になるよう特定の加工を施すことを特徴とする請求項１に記載の情報処理システム。
【請求項８】
前記受付手段は、前記加工手段によって加工された文書から文字列を検索し、当該文字列に対して前記特定の加工を施すように修正するよう受け付けることを特徴とする請求項１に記載の情報処理システム。
【請求項９】
前記受付手段は、前記加工手段によって加工された文書内から文字列を指定し、当該文字列に対して前記特定の加工を施すように修正するよう受け付けることを特徴とする請求項１に記載の情報処理システム。
【請求項１０】
前記特定の加工とは、特定の色で塗りつぶす処理であることを特徴とする請求項１乃至９のいずれか１項に記載の情報処理システム。
【請求項１１】
前記特定の加工とは、特定の文字列に置き換える処理であることを特徴とする請求項１乃至９のいずれか１項に記載の情報処理システム。
【請求項１２】
文書に含まれる特定の文字列について、当該文字列として認識できない形態になるよう特定の加工を施す加工ステップと、
前記加工ステップによる加工の対象の文字列を識別可能に表示した文書と、加工対象の当該文字列の一覧とを表示するように制御する表示制御ステップと、
前記一覧に対する操作を受け付けることで、前記特定の加工の対象の修正を受け付ける受付ステップと、

を備えることを特徴とする情報処理システムの制御方法。
【請求項１３】
少なくとも１つのコンピュータを請求項１乃至９のいずれか１項に記載の情報処理システムとして機能させるためのプログラム。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、マスキング文書の作成に係る情報処理システム及びその制御方法、プログラムに関する。
【背景技術】
【０００２】
行政機関においては情報公開法に基づく開示請求があった場合には、原則として開示請求の対象となった文書を請求者に対して開示しなければならないとされている。ただし、開示することで差し障りのある情報（例えば国の安全等に関する情報や個人情報など）は不開示とすることができ、不開示情報が記載された部分については黒塗りにして文書を開示することが認められている。
また、一般企業等においても、実例をベースにした書類の記入見本を作成したり、アンケート結果やユーザからの意見・要望などを公開する際に、個人情報に係る部分や機密情報を隠して公開することが行われている。
【０００３】
このように、文書等を公開するにあたり、公開すべきではない部分を隠す（マスクする）ことが行われているが、マスクする処理を施す作業の効率化や、マスク対象の抜け漏れを防ぐことを目的として、システムによりマスク対象を自動で特定する技術が存在する。
【０００４】
特許文献１には、画像内の文字領域・図形領域・写真領域・表領域等を抽出し、当該領域に設定された公開レベルとユーザの閲覧権レベルに応じて当該領域を黒一色で塗りつぶすことが開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特開２００２－２９８１２２号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
上述の開示請求の対象となる文書は、ページ数も膨大でマスク対象の文字列も膨大になることもあり、そのような場合には効率的にマスク処理を行うことが求められる。また、システムによりマスク対象と判断された文字列について、マスク対象として適切なのか判断し必要であれば修正したり、追加でマスク対象を設定することが必要となり、これらの作業の効率化も求められる。
そこで本発明では、マスク処理を効率的に行うことを可能とする仕組みを提供することを目的する。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
文書に含まれる特定の文字列について、当該文字列として認識できない形態になるよう特定の加工を施す加工手段と、
前記加工手段による加工の対象の文字列を識別可能に表示した文書と、加工対象の当該文字列の一覧とを表示するように制御する表示制御手段と、
前記一覧に対する操作を受け付けることで、前記特定の加工の対象の修正を受け付ける受付手段と、
を備えることを特徴とする。

【発明の効果】
【０００８】
本発明によれば、マスク処理を効率的に行うことが可能となる。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】本発明のシステム構成の一例を示す図である。
【図２】各種装置のハードウェア構成の一例を示す図である。
【図３】処理の概要を示すフローチャートである。
【図４】メニュー画面の一例を示す図である。
【図５】マスキング修正・追加作業画面の一例を示す図である。
【図６】検索文字列を追加した際の画面の一例を示す図である。
【図７】コメント追加ボタン押下時の画面の一例を示す図である。
【図８】文書の任意の箇所にマスキングする際の画面の一例を示す図である。
【図９】指定された文字列をマスキングする際の画面の一例を示す図である。
【図１０】マスキング確定画面の一例を示す図である。
【図１１】請求書のマスキングの一例を示す図である。
【図１２】不開示理由書作成の手順の一例を示す図である。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
以下、図面を参照して、本発明の実施形態を詳細に説明する。
【００１１】
まず、図１を参照して、本発明の実施形態における情報処理システムの構成の一例について説明する。
【００１２】
本発明の情報処理システムは、クライアント端末１００、サーバ１１０がネットワーク１０１によって通信可能に接続されて構成されている。
【００１３】
クライアント端末１００は、例えばパーソナルコンピュータ（以下、ＰＣ）やスマートフォン等の携帯端末であり、マスキング処理を実施するソフトウェアがインストールされている。サーバ１１０は、例えばクライアント端末１００によりマスキング処理を実施された文書を保存する。
【００１４】
次に図２を参照して、本発明の実施形態における、各種装置のハードウェア構成の一例について説明する。図２は、クライアント端末１００のハードウェア構成を示すブロック図である。
【００１５】
図２において、内部バス２５０に対してＣＰＵ２０１、メモリ２０２、不揮発性メモリ２０３、画像処理部２０４、ディスプレイ２０５、操作部２０６、記録媒体Ｉ／Ｆ２０７、外部Ｉ／Ｆ２０９、通信Ｉ／Ｆ２１０が接続されている。内部バス２５０に接続される各部は、内部バス２５０を介して互いにデータのやりとりを行うことができるようにされている。
【００１６】
メモリ２０２は、例えばＲＡＭ（半導体素子を利用した揮発性のメモリなど）からなる。ＣＰＵ２０１は、例えば不揮発性メモリ２０３に格納されるプログラムに従い、メモリ２０２をワークメモリとして用いて、クライアント端末１００の各部を制御する。不揮発性メモリ２０３には、画像データや音声データ、その他のデータ、ＣＰＵ２０１が動作するための各種プログラムなどが格納される。不揮発性メモリ２０３は例えばハードディスク（ＨＤ）やＲＯＭなどで構成される。
【００１７】
画像処理部２０４は、ＣＰＵ２０１の制御に基づいて、不揮発性メモリ２０３や記録媒

体２０８に格納された画像データや、外部Ｉ／Ｆ２０９を介して取得した映像信号、通信Ｉ／Ｆ２１０を介して取得した画像データ、撮像された画像などに対して各種画像処理を施す。画像処理部２０４が行う画像処理には、Ａ／Ｄ変換処理、Ｄ／Ａ変換処理、画像データの符号化処理、圧縮処理、デコード処理、拡大／縮小処理（リサイズ）、ノイズ低減処理、色変換処理、マスキング処理などが含まれる。画像処理部２０４は特定の画像処理を施すための専用の回路ブロックで構成しても良い。また、画像処理の種別によっては画像処理部２０４を用いずにＣＰＵ２０１がプログラムに従って画像処理を施すことも可能である。

【００１８】

ディスプレイ２０５は、ＣＰＵ２０１の制御に基づいて、画像やＧＵＩ（Ｇｒａｐｈｉｃａｌ Ｕｓｅｒ Ｉｎｔｅｒｆａｃｅ）を構成するＧＵＩ画面などを表示する。ＣＰＵ２０１は、プログラムに従い表示制御信号を生成し、ディスプレイ２０５に表示するための映像信号を生成してディスプレイ２０５に出力するようにクライアント端末１００の各部を制御する。ディスプレイ２０５は出力された映像信号に基づいて映像を表示する。なお、クライアント端末１００自体が備える構成としてはディスプレイ２０５に表示させるための映像信号を出力するためのインターフェースまでとし、ディスプレイ２０５は外付けのモニタ（テレビなど）で構成してもよい。

【００１９】

操作部２０６は、キーボードなどの文字情報入力デバイスや、マウスやタッチパネルといったポインティングデバイス、ボタン、ダイヤル、ジョイスティック、タッチセンサ、タッチパッドなどを含む、ユーザ操作を受け付けるための入力デバイスである。なお、タッチパネルは、ディスプレイ２０５に重ね合わせて平面的に構成され、接触された位置に応じた座標情報が出力されるようにした入力デバイスである。

【００２０】

記録媒体Ｉ／Ｆ２０７は、メモリーカードやＣＤ、ＤＶＤといった記録媒体２０８が装着可能とされ、ＣＰＵ２０１の制御に基づき、装着された記録媒体２０８からのデータの読み出しや、当該記録媒体２０８に対するデータの書き込みを行う。外部Ｉ／Ｆ２０９は、外部機器と有線ケーブルや無線によって接続し、映像信号や音声信号の入出力を行うためのインターフェースである。通信Ｉ／Ｆ２１０は、外部機器やインターネット２１１などと通信して、ファイルやコマンドなどの各種データの送受信を行うためのインターフェースである。例えば、ＴＣＰ／ＩＰを用いた通信やＩＳＤＮなどの電話回線、および携帯電話の４Ｇ回線、５Ｇ回線等を用いた通信が可能である。

【００２１】

カメラ部２１２は、光学像を電気信号に変換するＣＣＤやＣＭＯＳ素子等で構成される撮像素子（撮像センサー）等で構成されるカメラユニットである。

【００２２】

次に図３を参照して、本発明の実施形態における、マスキング文書及び一覧作成の基本処理について説明する。なお、各ステップの処理は、クライアント端末１００のＣＰＵ２０１が実行する。クライアント端末１００でマスキングアプリの実行が指示されると図３の処理が開始される。

【００２３】

Ｓ３０１では、ＣＰＵ２０１は、マスキングアプリのメニュー画面を表示する。メニュー画面の表示例を図４（ａ）に示す。メニュー画面は行政文書開示請求書個人情報マスクボタン３０１と、開示文書マスクボタン３０２と、開示文書マスク確認ボタン３０３を備える。行政文書開示請求書個人情報マスクボタン３０１の押下を受け付けると、請求書の個人情報に対してマスク処理を実施することができる。詳しくはＳ３１３以降で説明する。開示文書マスクボタン３０２の押下を受け付けると、対象の文書に対してマスク処理を実施することができる。開示文書マスク確認ボタン３０３の押下を受け付けると、マスク処理を施された文書を確認できる。

【００２４】

Ｓ３０２では、ＣＰＵ２０１は、開示文書マスクボタンの押下を受け付けたか否かを判定する。受け付けた場合はＳ３０３へ進み、そうでない場合はＳ３１４へ進む。

【００２５】

Ｓ３０３では、ＣＰＵ２０１は、マスキング対象の文書のアップロードを受け付ける。アップロード方法は、例えば図４（ｂ）に示すように電子ファイルを直接アプリにアップロードするか、紙文書をスキャンしてアップロードするかを選択することができる。

【００２６】

Ｓ３０４では、ＣＰＵ２０１は、アップロードされた文書からテキストを抽出し、当該テキストからマスキング対象を特定する。本実施例では、抽出されたテキストからマスキング対象を特定するために自然言語処理を用いる。マスキング対象として特定される部分は、人名、組織名、日時、住所、電話番号、メールアドレス等、主に個人情報に関わる。マスキング対象を特定する際に手作業で実施すると、一つ一つ特定してマスキングしていくので大変な労力を要し、またマスキングすべき箇所を漏らしてしまう場合がある。これに対して、本実施例のようにマスキング対象を自動で特定することにより、文書ファイルをアップロードするだけで特定できるので作業時間が短縮でき、マスキング対象箇所の抜け落ちも減らすことが出来る。

【００２７】

Ｓ３０５では、ＣＰＵ２０１は、マスキング修正・追加作業画面をディスプレイ２０５に表示する。具体的には、図５（ａ）のようにマスキング文書の下書き領域４０１（以下、単に下書き領域ともいう）と、マスキング候補一覧４０２が表示される。初期画面では下書き領域４０１には、Ｓ３０２で特定されたマスキング対象の文字列に黄色のマーカーが表示されている。マスキング候補一覧４０２は、Ｓ３０３で特定されたマスキング対象の文字列の一覧であり、それぞれの文字列に対応するマスクの有無を切り替えるチェックボックス、マスクデータ、ハイライト表示の色、データの種類、事由選択欄４０３で構成される。マスクの有無を切り替えるチェックボックスについて、「入」の場合マスキング候補対象として下書き領域４０１内で識別表示する。「切」の場合マスキング対象候補から外し、下書き領域４０１でも識別表示から通常の表示状態に切り替える。

【００２８】

このように、下書き領域４０１とマスキング候補一覧４０２は対応しているため、後述するＳ３０６、Ｓ３０７で一方を修正する処理を実行するともう一方にも修正が反映され、両方を同時に作成しながら進められる。なお、後述するステップにおいて表示する場合の表示先はすべてディスプレイ２０５であるものとする。

【００２９】

Ｓ３０６では、ＣＰＵ２０１は、各種修正操作を受け付けたか否かを判定する。受け付けた場合は、Ｓ３０７に処理を進め、そうでない場合には、Ｓ３０８に処理を進める。

【００３０】

Ｓ３０７では、Ｓ３０６で受け付けた各種修正操作に基づいて修正処理を実行する。修正処理は、図５に示す事由選択欄４０３への入力または選択を受け付けることで実施される。また、修正処理を受け付けるボタンとして、図５に示すように検索文字列追加ボタン４０５、コメント追加ボタン４０６、マスキング（丸形・角型）ボタン４０７、マスキング（文字指定）ボタン４０８が表示され、各ボタンに対する操作を受け付けることで、ボタンに応じた修正処理を実施することができる。

【００３１】

まず事由選択欄４０３について説明する。本実施例における事由とは、テキストをマスキング対象とした根拠となる事由（条文）である。情報開示請求に対する文書開示において、非開示とする場合には根拠を示さなければならない。マスキング候補一覧４０２では、事由選択欄４０３に該当する事由をユーザによる手入力またはプルダウンより選択することで、追加することが可能である。追加された事由には色が対応付けられており、事由に応じてマスキング文書の下書き領域４０１のハイライト表示の色を変更する。具体的には、初期画面では図５（ａ）のように黄色のマーカーで表示されているが、事由選択欄４

０３で選択された事由に応じて図５（ｂ）のように青色や紫色等に変更する。これにより、どの事由に基づいてマスキング処理されているのかが視覚的に把握しやすくなるため、誤った事由を選択していないか確認しやすくなる。なお、Ｓ３０５で表示される初期画面を図５（ｂ）のような予め事由が入力された状態の画面を表示しても良い。その場合、Ｓ３０４で文書から言語処理技術を用いてマスク対象を特定する際、マスク対象のテキストを特定するだけでなく、その種類まで特定する。例えば、そのテキストが人名・住所・メールアドレス・電話番号等のいずれに該当するかまで特定する。そして、予めその種類と条文番号を対応付けておくことで、特定された種類に応じて条文番号を事由として表示することが可能となる。

【００３２】

次に図６では、「第一営業部」という文字列５０１をテキストボックス４０４に入力して検索した例を示している。テキストボックス４０４に「第一営業部」という文字列５０１を入力し、検索文字列追加ボタン４０５の押下を受け付けると、事由選択画面（不図示）を表示する。事由選択画面で、当該文字列に該当する事由を選択し完了ボタンの押下を受け付けると、下書き領域４０１の全頁から「第一営業部」という文字列５０１を検索し、検索された当該文字列を事由に応じた色でハイライト表示させる。当該文字列はマスキング候補一覧４０２に追加される。

また、次のような処理の流れでも良い。テキストボックス４０４に入力された「第一営業部」という文字列５０１を下書き領域４０１の全頁から検索し、検索された「第一営業部」という文字列５０１をハイライト表示させる。また、テキストボックス４０４に「第一営業部」という文字列５０１が入力された状態で、検索文字列追加ボタン４０５の押下を受け付けると、当該文字列をマスキング候補としてマスキング候補一覧４０２に追加する。

【００３３】

次に図７を用いてコメント追加ボタン４０６押下時の処理について説明する。コメント追加ボタン４０６の押下を受け付け、マスキング文書の下書き領域４０１の中から任意の場所を選択すると、その場所にコメント入力テキストボックス６０１を配置する。また、コメント入力テキストボックス６０１が下書き領域４０１に配置されると、当該コメントをマスキング候補一覧４０２に追加する。これにより、ワークフローの中で次の人への申し送り事項を記入することが出来るようになる。また、当該コメントは、誤ってコメントの内容が公にならないようにするために、Ｓ３０６でマスキング箇所を確定ボタンの押下を受け付けると削除される。

【００３４】

次に図８を用いてマスキング（丸型・角型）ボタン４０７押下時の処理について説明する。マスキング（丸型・角型）ボタン４０７の押下を受け付けると、事由選択画面（不図示）を表示して事由の選択を受け付ける。そして、マスキング文書の下書き領域４０１の中から任意の場所（領域）をマウスで囲む等により指定すると、その場所にボタンの選択に応じた図形７０１を配置する。また、図形７０１が下書き領域４０１に配置されると、当該図形によって特定される領域をマスキング候補としてマスキング候補一覧４０２に追加する。これにより、文書内の文字列だけでなく言語処理では抽出できないようなロゴ、記号、印影等までマスキングの対象とすることが出来る。なお、文書の範囲選択はマウスのドラッグ操作に限らず、例えば下書き領域４０１内の任意の場所を選択すると、選択された場所に丸型又は角型の図形を追加するといった方法でもよい。

【００３５】

最後に図９では、下書き領域４０１の中から「提案を実施しました。…」という文字列８０１を指定した例について示している。マスキング（文字指定）ボタン４０８の押下を受け付けると、事由選択画面（不図示）を表示して事由の選択を受け付ける。そして、下書き領域４０１内の「提案を実施しました。…」という文字列８０１をドラッグ操作等で選択すると、選択された当該文字列をマスキング候補として特定する。さらに、「提案を実施しました。…」という文字列８０１はマスキング候補一覧４０２に追加される。

【００３６】
　また、事由書保存ボタン４０９の押下を受け付けると、マスキング候補一覧４０２をＣＳＶ等のファイルに出力する。中間ファイル保存ボタン４１０の押下を受け付けると、作業中の中間ファイルを出力する。
【００３７】
　Ｓ３０８では、ＣＰＵ２０１は、マスキング箇所を確定ボタン４１１が押下されたか否かを判定する。押下されたと判定した場合には、Ｓ３０９に処理を進め、そうでない場合には、Ｓ３１３に処理を進める。
【００３８】
　Ｓ３０９では、ＣＰＵ２０１は、マスキング確定画面を表示する。図１０にマスキング確定画面の一例を示す。マスキング確定画面には、イメージ画像９０１とマスキング箇所を訂正ボタン９０２、ＰＤＦ出力ボタン９０３を備える。
【００３９】
　Ｓ３１０では、ＣＰＵ２０１は、マスキング箇所を訂正ボタン９０２が押下されたか否かを判定する。押下されたと判定した場合には、Ｓ３０５に処理を進め、そうでない場合には、Ｓ３１１に処理を進める。
【００４０】
　Ｓ３１１、Ｓ３１２では、ＣＰＵ２０１は、ＰＤＦ出力ボタンの押下を受け付けるとマスキング確定画面に表示されている内容をＰＤＦ出力する。
【００４１】
　Ｓ３１３では、ＣＰＵ２０１は、アプリの終了を指示する操作があった場合にはマスキングアプリを閉じ、図３の処理を終了する。
【００４２】
　続いて、Ｓ３１４では、ＣＰＵ２０１は、図４のメニュー画面で行政文書開示請求書個人情報マスクボタン３０１の押下を受け付けたか否かを判定する。受け付けた場合はＳ３１５へ進み、そうでない場合はＳ３２１へ進む。
【００４３】
　Ｓ３１５では、ＣＰＵ２０１は、請求書番号の入力とスキャン開始ボタンの押下を受け付ける。図１１（ａ）では、請求書番号の入力を受け付け、スキャン開始ボタン１００１の押下を受け付ける。請求書番号の入力は番号を特定できれば、プルダウンリストから選択等のように手入力でなくてもよい。
【００４４】
　Ｓ３１６では、ＣＰＵ２０１は、請求書個人情報マスク下書き画面を表示する。請求書個人情報マスク画面の表示例を図１１（ｂ）に示す。スキャンされた請求書から個人情報の部分について言語処理技術を用いて特定し、マスク候補１００２として表示する。マスク候補１００２は、例えばドラッグ操作で移動させることができたり、新たにマスク候補１００２を追加することができる。また、マスク候補１００２を選択することで、その範囲を拡大したり縮小したりすることができる。
【００４５】
　Ｓ３１７では、ＣＰＵ２０１は、ＰＤＦ出力ボタン１００３の押下を受け付けると請求書個人情報マスク画面を表示する。請求書個人情報マスク画面の表示例を図１１（ｃ）に示す。図１１（ｂ）でマスク候補１００２となっていた部分について、実際にマスキングされたプレビュー画面を表示する。ＰＤＦ出力ボタン１００３の押下を受け付けると、マスキングされた請求書がＰＤＦで出力される。また、ＰＤＦは、例えば文書を一元管理している部門で管理しておく文書と、各省庁内で共有するための資料のように複数出力されるようにしてもよい。×ボタン１００５の押下を受け付けると、図３の処理を終了する。これにより、行政文書開示請求書は各省庁内で資料を共有する際に、個人情報が公にならないようにマスク処理を施すことが出来る。
【００４６】
　続いて、Ｓ３１８では、ＣＰＵ２０１は、図４のメニュー画面で開示文書確認ボタンの

押下を受け付けたか否かを判定する。受け付けた場合はＳ３１９に進み、そうでない場合はＳ３０１へ戻る。

【００４７】

Ｓ３１９では、ＣＰＵ２０１は、開示文書確認画面を表示する。開示文書確認画面（不図示）では、マスキング修正・追加作業画面の中間ファイル保存ボタン４１０の押下を受け付け、作業途中で保存された文書を確認するための画面である。例えば、各文書は一覧で表示されており、各文書に付与されている請求受け付け番号を用いて検索したり、日付などでソートしたりすることが出来る。

【００４８】

以上が図３の説明である。

【００４９】

以上説明したように、本実施形態によればマスク処理を効率的に行うことが可能となる。具体的には、マスキング候補一覧を表示することにより、マスキング対象を一目で把握することが可能となる。また、マスキング候補一覧からマスクの有無を選択することが出来るため、マスク対象を効率的かつ適切に設定することが出来る。

【００５０】

なお、上述の実施形態では、図５（ａ）でマスキング候補として特定された文字列について、マスク処理を施す例を説明したが、特定された文字列を伏せることが可能であればこれに限るものではない。例えば、人名を「山田太郎」と置き換えたり、特定の文字（＊マーク等）に置き換えたりしてもよい。

【００５１】

なお、上述の実施形態では、マスキング候補一覧の表示例を説明したがこれに限るものではない。マスキング候補一覧を編集することで、一覧を並べ替えたり、マスクの有無のチェックボックスを一括切替が出来たりしても良い。

【００５２】

なお、上述の実施形態では、マスキング修正・追加作業画面の表示例を説明したがこれに限るものではない。例えば、図１２（ａ）のように不開示理由書作成ボタン１１０１を備えていてもよい。不開示理由書作成ボタン１１０１の押下を受け付けると、図１２（ｂ）の画面へ遷移する。この画面では、マスク候補としてマーカーで識別表示されている箇所の位置１１０２と、その事由１１０３と不開示とした理由欄１１０４を表示している。不開示とした理由欄１１０４で右クリックをすると図１２（ｃ）の画面へ遷移する。図１２（ｃ）では、マスク候補の事由に基づいて表示される不開示とした理由が表示され、チェックボックス１１０５による選択を受け付ける。すなわち、根拠となる事由（条文）を更に特定するための情報の選択を受け付ける。ＯＫボタン１１０６の押下を受け付けると、図１２（ｄ）の画面へ遷移し、不開示とした理由欄１１０４に図１２（ｃ）で選択された不開示とした理由が表示される。これにより、不開示とした理由を省庁内で共有するための不開示理由書や、不開示とした理由を請求者に説明するための開示決定通知書を容易に作成することが出来る。

【００５３】

本発明は、例えば、システム、装置、方法、プログラムもしくは記録媒体等としての実施態様をとることが可能である。具体的には、複数の機器から構成されるシステムに適用しても良いし、また、一つの機器からなる装置に適用しても良い。

【００５４】

なお、ＣＰＵ２０１が行うものとして説明した上述の各種制御は１つのハードウェアが行ってもよいし、複数のハードウェア（例えば、複数のプロセッサーや回路）が処理を分担することで、装置全体の制御を行ってもよい。

【００５５】

また、本発明をその好適な実施形態に基づいて詳述してきたが、本発明はこれら特定の実施形態に限られるものではなく、この発明の要旨を逸脱しない範囲の様々な形態も本発明に含まれる。さらに、上述した各実施形態は本発明の一実施形態を示すものにすぎず、

各実施形態を適宜組み合わせることも可能である。

【００５６】

また、上述した実施形態においては、本発明をＰＣにおけるマスキングアプリに適用した場合を例にして説明したが、これはこの例に限定されず、文書を編集することができるような装置、ソフトウェアであれば適用可能である。すなわち、本発明はパーソナルコンピュータやスマートフォン等の携帯電話端末などに適用可能である

【００５７】

（他の実施形態）

本発明は、以下の処理を実行することによっても実現される。即ち、上述した実施形態の機能を実現するソフトウェア（プログラム）をネットワーク又は各種記憶媒体を介してシステム或いは装置に供給し、そのシステム或いは装置のコンピュータ（又はＣＰＵやＭＰＵ等）がプログラムコードを読み出して実行する処理である。この場合、そのプログラム、及び該プログラムを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【符号の説明】

【００５８】

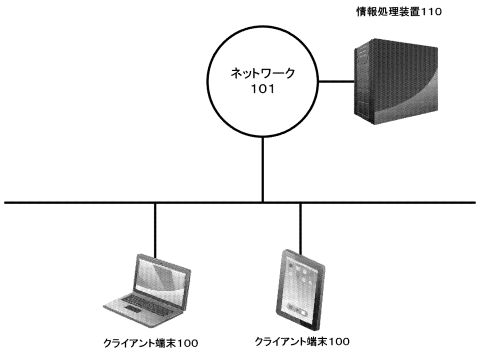
１００　クライアント端末

１０１　ネットワーク

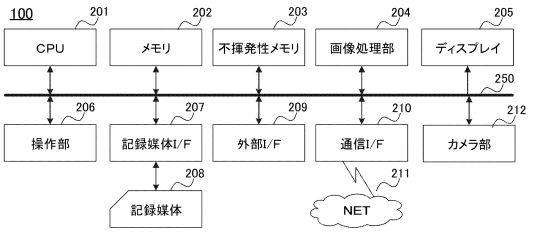
１１０　サーバ

【図面】

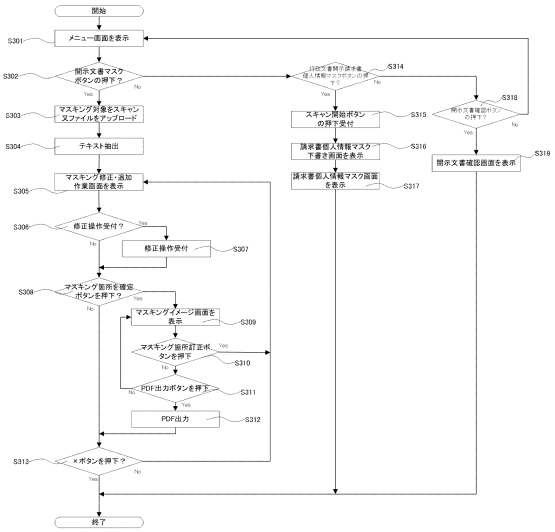
【図１】



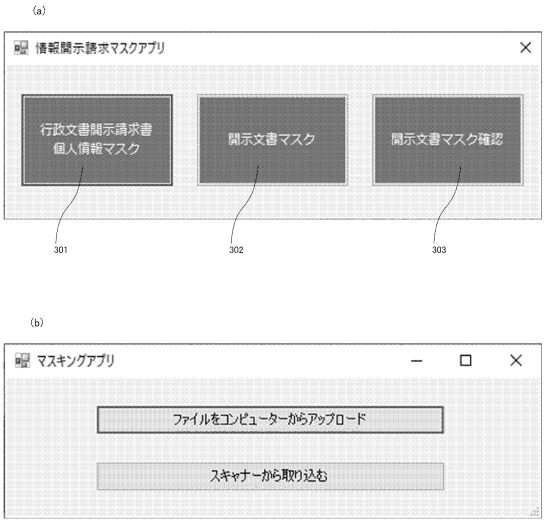
【図２】



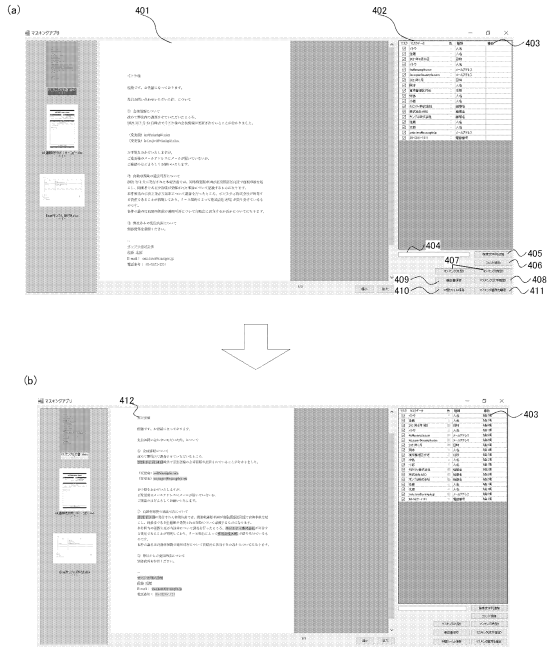
【図３】


開始
メニュー画面を表示
S301
開示文書マスクボタンの押下？
S302
マスキング対象をスキャンまたはファイルをアップロード
S303
テキスト抽出
S304
マスキング修正・追加作業画面を表示
S305
修正操作受付？
S306
修正操作受付
S307
マスキング箇所を確定ボタンを押下？
S308
マスキングイメージ画面を表示
S309
マスキング箇所訂正ボタンを押下
S310
PDF出力ボタンを押下
S311
PDF出力
S312
×ボタンを押下？
S313
請求書個人情報マスクボタンを押下？
S314
スキャン開始ボタンの押下受付
S315
請求書個人情報マスク下書き画面を表示
S316
請求書個人情報マスク画面を表示
S317
開示文書確認ボタンの押下？
S318
開示文書確認画面を表示
S319
終了

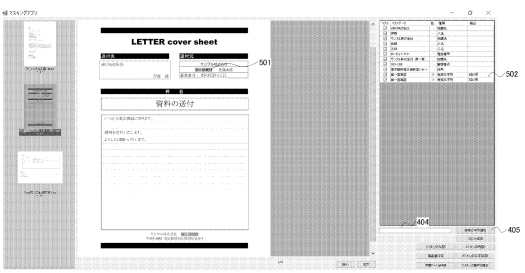
【図４】


(a)
情報開示請求マスクアプリ
行政文書開示請求書個人情報マスク
開示文書マスク
開示文書マスク確認
301
302
303
(b)
マスキングアプリ
ファイルをコンピューターからアップロード
スキャナーから取り込む

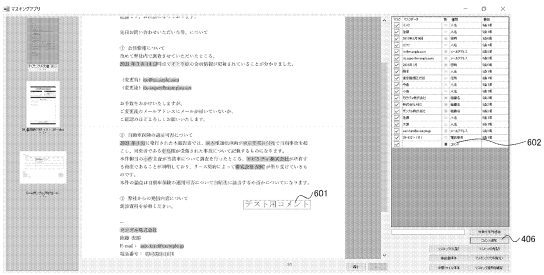
【図５】


(a)
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
(b)
412
403

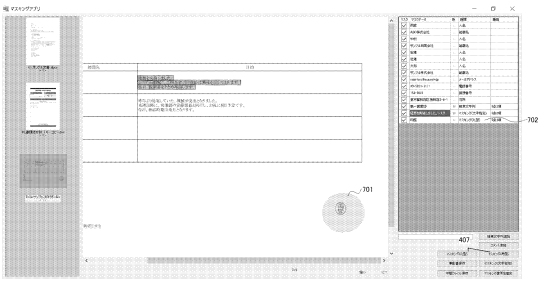
【図６】


LETTER cover sheet
501
502
資料の送付
404
405

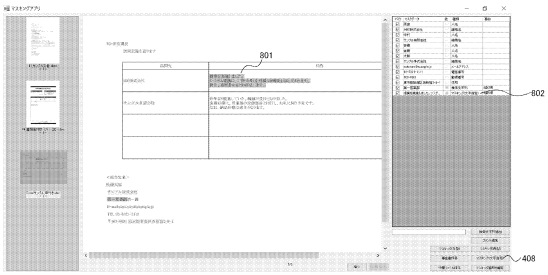
【図７】


601
テスト用コメント
602
406

【図８】


マスキングアプリ
701
702
407

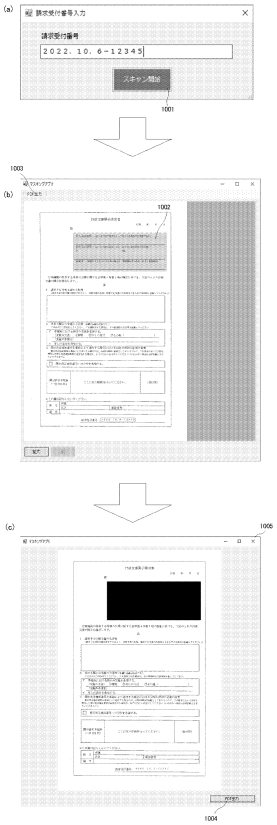
【図９】


マスキングアプリ
801
802
408

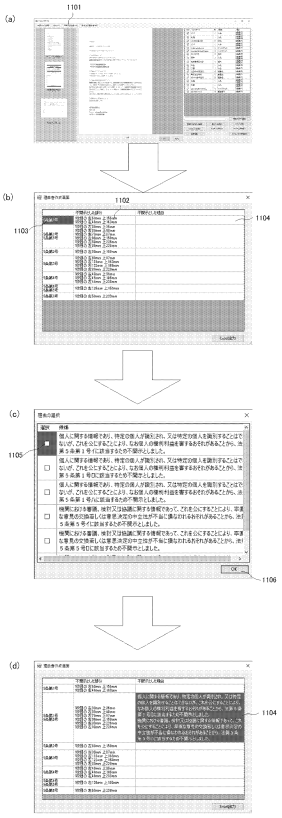
【図１０】


マスキングアプリ
411
マスキング箇所を訂正
1/3
PDF出力
901
902

【図１１】


(a)
請求受付番号入力
請求受付番号
2022.10.6-12345
スキャン開始
1001
1003
(b)
1002
(c)
1005
1004

【図１２】


(a)
1101
(b)
1102
1103
1104
(c)
1105
1106
(d)
1104